

1

解答例のページへ

座標平面上の原点を  $O$  とし、1 点  $A(a, -1)$  をとる。ただし、 $a > 0$  とする。また、放物線  $y = x^2$  上に点  $B$  をとる。ただし、 $B$  は原点以外の点とする。次の問いに答えよ。

- (1) ベクトル  $\overrightarrow{OA}$ 、 $\overrightarrow{OB}$  が垂直になるときの点  $B$  の座標を  $a$  を用いて表せ。また、そのときの三角形  $OAB$  の面積  $S$  を  $a$  を用いて表せ。
- (2) 内積  $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB}$  が最大になるときの点  $B$  の座標を  $a$  を用いて表せ。また、そのときの三角形  $OAB$  の面積  $T$  を  $a$  を用いて表せ。
- (3)  $S$  と  $T$  は、(1)と(2)で求めたものとする。 $S = 3T$  となるときの点  $A$  の座標を求めよ。

2

解答例のページへ

実数  $t$  に対して、 $F(t) = \int_0^t e^{-2x} \sin^2 x dx$  とおく。ただし、 $e$  は自然対数の底である。

次の問いに答えよ。

(1)  $-\frac{\pi}{2} < x < \frac{\pi}{2}$  の範囲において、関数  $y = e^{-2x} \sin^2 x$  の極値を求めよ。

(2) 実数  $t$  に対して、 $I(t) = \int_0^t e^{-2x} \cos 2x dx$ 、 $J(t) = \int_0^t e^{-2x} \sin 2x dx$  とおく。こ

のとき、次の 3 つの等式(a), (b), (c)が成り立つことを示せ。

$$(a) \quad F(t) = -\frac{1}{2}e^{-2t} \sin^2 t + \frac{1}{2}J(t)$$

$$(b) \quad I(t) = \frac{1}{2} - \frac{1}{2}e^{-2t} \cos 2t - J(t)$$

$$(c) \quad J(t) = -\frac{1}{2}e^{-2t} \sin 2t + I(t)$$

(3) 極限值  $\lim_{t \rightarrow \infty} F(t)$  を求めよ。

3

解答例のページへ

2 次方程式  $x^2 - x - 1 = 0$  の解  $\alpha = \frac{1+\sqrt{5}}{2}$ ,  $\beta = \frac{1-\sqrt{5}}{2}$  に対して, 数列  $\{a_n\}$  を  $a_n = \alpha^{n-1} + \beta^{n-1}$  ( $n=1, 2, 3, \dots$ ) により定める。次の問いに答えよ。

- (1)  $a_1, a_2, a_3, a_4, a_5$  を求めよ。
- (2) 自然数  $n$  に対して,  $\alpha^{n+1} - \alpha^n = \alpha^{n-1}$ ,  $\beta^{n+1} - \beta^n = \beta^{n-1}$  が成り立つことを示せ。
- (3) 数列  $\{a_n\}$  の階差数列を  $\{b_n\}$  とする。すなわち,  $b_n = a_{n+1} - a_n$  ( $n=1, 2, 3, \dots$ ) である。 $b_1$  を求めよ。また,  $n \geq 2$  に対して,  $b_n = a_{n-1}$  が成り立つことを示せ。
- (4) 自然数  $n$  に対して,  $\sum_{k=1}^n a_k = a_{n+2} - 1$  が成り立つことを示せ。
- (5) 自然数  $n$  に対して,  $\sum_{k=1}^n a_k^2 = a_n a_{n+1} + 2$  が成り立つことを示せ。

4

解答例のページへ

2 つの関数  $f(x) = \log_2 x$ ,  $g(x) = |x^2 - 2x - 3| - |x^2 - x|$  について, それらの合成関数  $h(x) = (g \circ f)(x) = g(f(x))$  を考える。次の問いに答えよ。

- (1)  $\frac{1}{16} \leq x \leq 4$  のとき,  $f(x)$  のとりうる値の範囲を求めよ。
- (2)  $\frac{1}{16} \leq x \leq 4$  のとき,  $h(x)$  のとりうる値の範囲を求めよ。
- (3) 関数  $y = h(x)$  ( $\frac{1}{16} \leq x \leq 4$ ) のグラフと直線  $y = 1$  の共有点の個数を求めよ。また, 共有点の  $x$  座標をすべて求めよ。
- (4)  $a$  は定数とする。関数  $y = h(x)$  ( $\frac{1}{16} \leq x \leq 4$ ) のグラフと直線  $y = a$  が共有点をもつとき, その共有点の個数を  $a$  の値によって場合分けして求めよ。

5

解答例のページへ

次の条件(☆)を満たす複素数  $z$  を考える。ただし、 $i$  は虚数単位とする。

(☆)  $iz^2$  は実数であって、 $0 \leq iz^2 \leq 2$  である。

次の問いに答えよ。

- (1)  $iz^2 = 2$  であるときの複素数  $z$  をすべて求めよ。
- (2)  $0 < iz^2 \leq 2$  であるときの複素数  $z$  の偏角  $\theta$  をすべて求めよ。ただし、 $0 \leq \theta < 2\pi$  とする。
- (3) 条件(☆)を満たす複素数  $z$  全体の集合を  $S$  とする。集合  $S$  を複素数平面上に図示せよ。
- (4) 複素数  $z$  が(3)の  $S$  を動くとき、 $\frac{z}{z+2}$  の実部の最小値を求めよ。

1

問題のページへ

- (1)  $a > 0$  のとき点  $A(a, -1)$ , 放物線  $y = x^2$  上の原点  $O$  以外の点  $B(t, t^2)$  に対して,

$$\overrightarrow{OA} = (a, -1), \overrightarrow{OB} = (t, t^2)$$

$\overrightarrow{OA} \perp \overrightarrow{OB}$  のとき,  $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = 0$  から  $at - t^2 = 0$  となり,  $t \neq 0$  より  $t = a$  である。

このとき  $B(a, a^2)$  より,  $\triangle OAB$  の面積  $S$  は,  $a > 0$  から,

$$S = \frac{1}{2} |a \cdot a^2 - (-1) \cdot a| = \frac{1}{2} |a^3 + a| = \frac{1}{2} a(a^2 + 1)$$

- (2)  $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = at - t^2 = -\left(t - \frac{a}{2}\right)^2 + \frac{a^2}{4}$  から, 内積の値は  $t = \frac{a}{2}$  のとき最大になる。

このとき  $B\left(\frac{a}{2}, \frac{a^2}{4}\right)$  より,  $\triangle OAB$  の面積  $T$  は,  $a > 0$  から,

$$T = \frac{1}{2} \left| a \cdot \frac{a^2}{4} - (-1) \cdot \frac{a}{2} \right| = \frac{1}{2} \left| \frac{a^3}{4} + \frac{a}{2} \right| = \frac{1}{8} a(a^2 + 2)$$

- (3)  $S = 3T$  より,  $\frac{1}{2} a(a^2 + 1) = \frac{3}{8} a(a^2 + 2)$  となり,  $a > 0$  から,

$$4(a^2 + 1) = 3(a^2 + 2), a^2 = 2$$

したがって,  $a = \sqrt{2}$  から,  $A(\sqrt{2}, -1)$  となる。

### [コメント]

ベクトルについての基本題です。なお, 三角形の面積は公式処理をしています。

2

問題のページへ

- (1)
- $-\frac{\pi}{2} < x < \frac{\pi}{2}$
- のとき, 関数
- $y = e^{-2x} \sin^2 x$
- に対して,

$$\begin{aligned} y' &= -2e^{-2x} \sin^2 x + e^{-2x} \cdot 2 \sin x \cos x = -2e^{-2x} \sin x (\sin x - \cos x) \\ &= -2\sqrt{2}e^{-2x} \sin x \sin\left(x - \frac{\pi}{4}\right) \end{aligned}$$

これより,  $-\frac{\pi}{2} < x < \frac{\pi}{2}$  における  
 $y$  の増減は右表のようになり,  
 $x = \frac{\pi}{4}$  のとき極大値  $\frac{1}{2}e^{-\frac{\pi}{2}}$ ,  $x = 0$   
 のとき極小値  $0$  をとる。

$x$	$-\frac{\pi}{2}$	...	$0$	...	$\frac{\pi}{4}$	...	$\frac{\pi}{2}$
$y'$		-	$0$	+	$0$	-	
$y$		↘	$0$	↗	$\frac{1}{2}e^{-\frac{\pi}{2}}$	↘	

- (2)
- $F(t) = \int_0^t e^{-2x} \sin^2 x dx$
- ,
- $I(t) = \int_0^t e^{-2x} \cos 2x dx$
- ,
- $J(t) = \int_0^t e^{-2x} \sin 2x dx$

$$\begin{aligned} \text{(a)} \quad F(t) &= \left[-\frac{1}{2}e^{-2x} \sin^2 x\right]_0^t + \frac{1}{2} \int_0^t e^{-2x} \cdot 2 \sin x \cos x dx \\ &= -\frac{1}{2}e^{-2t} \sin^2 t + \frac{1}{2} \int_0^t e^{-2x} \sin 2x dx = -\frac{1}{2}e^{-2t} \sin^2 t + \frac{1}{2}J(t) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{(b)} \quad I(t) &= \left[-\frac{1}{2}e^{-2x} \cos 2x\right]_0^t - \frac{1}{2} \int_0^t e^{-2x} \cdot 2 \sin 2x dx \\ &= -\frac{1}{2}(e^{-2t} \cos 2t - 1) - \int_0^t e^{-2x} \sin 2x dx = \frac{1}{2} - \frac{1}{2}e^{-2t} \cos 2t - J(t) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{(c)} \quad J(t) &= \left[-\frac{1}{2}e^{-2x} \sin 2x\right]_0^t + \frac{1}{2} \int_0^t e^{-2x} \cdot 2 \cos 2x dx \\ &= -\frac{1}{2}e^{-2t} \sin 2t + \int_0^t e^{-2x} \cos 2x dx = -\frac{1}{2}e^{-2t} \sin 2t + I(t) \end{aligned}$$

- (3) (b)(c)から,
- $J(t) = -\frac{1}{2}e^{-2t} \sin 2t + \left\{\frac{1}{2} - \frac{1}{2}e^{-2t} \cos 2t - J(t)\right\}$
- となり,

$$J(t) = \frac{1}{2} \left\{ \frac{1}{2} - \frac{1}{2}e^{-2t} (\sin 2t + \cos 2t) \right\} = \frac{1}{4} - \frac{\sqrt{2}}{4}e^{-2t} \sin\left(2t + \frac{\pi}{4}\right)$$

$$\text{(a)に代入して, } F(t) = -\frac{1}{2}e^{-2t} \sin^2 t + \frac{1}{8} - \frac{\sqrt{2}}{8}e^{-2t} \sin\left(2t + \frac{\pi}{4}\right) \dots\dots\dots (*)$$

ここで,  $|e^{-2t} \sin^2 t| \leq e^{-2t}$ ,  $|e^{-2t} \sin\left(2t + \frac{\pi}{4}\right)| \leq e^{-2t}$  から,  $t \rightarrow \infty$  のとき,

$$e^{-2t} \sin^2 t \rightarrow 0, \quad e^{-2t} \sin\left(2t + \frac{\pi}{4}\right) \rightarrow 0$$

したがって, (\*)から,  $\lim_{t \rightarrow \infty} F(t) = 0 + \frac{1}{8} - 0 = \frac{1}{8}$  となる。

## [コメント]

定積分の計算に極限を融合した問題です。(2)の等式の利用方法がポイントです。

3

問題のページへ

(1) 方程式  $x^2 - x - 1 = 0$  の解  $\alpha = \frac{1+\sqrt{5}}{2}$ ,  $\beta = \frac{1-\sqrt{5}}{2}$  に対し,  $\alpha + \beta = 1$ ,  $\alpha\beta = -1$

ここで,  $a_n = \alpha^{n-1} + \beta^{n-1}$  とおくと,  $a_1 = \alpha^0 + \beta^0 = 2$ ,  $a_2 = \alpha^1 + \beta^1 = 1$  となり,

$$a_3 = \alpha^2 + \beta^2 = (\alpha + \beta)^2 - 2\alpha\beta = 1 + 2 = 3$$

$$a_4 = \alpha^3 + \beta^3 = (\alpha + \beta)^3 - 3\alpha\beta(\alpha + \beta) = 1 + 3 = 4$$

$$a_5 = \alpha^4 + \beta^4 = (\alpha^2 + \beta^2)^2 - 2\alpha^2\beta^2 = 9 - 2 = 7$$

(2)  $\alpha$ ,  $\beta$  は  $x^2 - x - 1 = 0$  の解なので,  $\alpha^2 - \alpha - 1 = 0$ ,  $\beta^2 - \beta - 1 = 0$

すると,  $\alpha^2 - \alpha = 1$  から, 両辺に  $\alpha^{n-1}$  をかけると  $\alpha^{n+1} - \alpha^n = \alpha^{n-1}$  ……①

また,  $\beta^2 - \beta = 1$  から, 両辺に  $\beta^{n-1}$  をかけると,  $\beta^{n+1} - \beta^n = \beta^{n-1}$  ……②

(3) ①②から,  $\alpha^{n+1} + \beta^{n+1} - (\alpha^n + \beta^n) = \alpha^{n-1} + \beta^{n-1}$  となり,

$$a_{n+2} - a_{n+1} = a_n \dots\dots\dots③$$

ここで,  $b_n = a_{n+1} - a_n$  とおくと,  $b_1 = a_2 - a_1 = 1 - 2 = -1$

また, ③から  $n \geq 2$  で,  $a_{n+1} - a_n = a_{n-1}$  となり,  $b_n = a_{n-1}$  ( $n \geq 2$ ) ……④

(4) ④から,  $b_{n+1} = a_n$  ( $n \geq 1$ ) となり,

$$\sum_{k=1}^n a_k = \sum_{k=1}^n b_{k+1} = \sum_{k=1}^n (a_{k+2} - a_{k+1}) = a_{n+2} - a_2$$

(1)から  $a_2 = 1$  なので,  $\sum_{k=1}^n a_k = a_{n+2} - 1$  が成り立つ。

(5) 自然数  $n$  に対して,  $\sum_{k=1}^n a_k^2 = a_n a_{n+1} + 2$  が成り立つことを数学的帰納法で示す。

(i)  $n=1$  のとき  $\sum_{k=1}^1 a_k^2 - (a_1 a_2 + 2) = 2^2 - (2 \cdot 1 + 2) = 0$  となり成立する。

(ii)  $n=l$  のとき  $\sum_{k=1}^l a_k^2 = a_l a_{l+1} + 2$  の成立を仮定すると, ③より,

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{l+1} a_k^2 - (a_{l+1} a_{l+2} + 2) &= (a_l a_{l+1} + 2) + a_{l+1}^2 - (a_{l+1} a_{l+2} + 2) \\ &= a_{l+1} (a_l + a_{l+1} - a_{l+2}) = 0 \end{aligned}$$

すると,  $n=l+1$  のときも成立する。

(i)(ii)より, 自然数  $n$  に対して,  $\sum_{k=1}^n a_k^2 = a_n a_{n+1} + 2$  が成り立つ。

### [コメント]

漸化式についての基本題です。非常に細かな誘導が付いています。なお, (5)は数学的帰納法を利用しました。初めは, (4)と同じく直接的に示そうと思ったのですが。

4

問題のページへ

(1)  $f(x) = \log_2 x$  に対して,  $\frac{1}{16} \leq x \leq 4$  のとき  $\log_2 \frac{1}{16} \leq \log_2 x \leq \log_2 4$  となり,

$$\log_2 2^{-4} \leq \log_2 x \leq \log_2 2^2, \quad -4 \leq f(x) \leq 2$$

(2)  $g(x) = |x^2 - 2x - 3| - |x^2 - x|$  に対して,  $t = \log_2 x$  とおくと,

$$h(x) = (g \circ f)(x) = g(f(x)) = g(\log_2 x) = g(t)$$

さて,  $g(t) = |t^2 - 2t - 3| - |t^2 - t| = |(t+1)(t-3)| - |t(t-1)|$  から,

(i)  $-4 \leq t \leq -1$  ( $\frac{1}{16} \leq x \leq \frac{1}{2}$ ) のとき  $g(t) = (t^2 - 2t - 3) - (t^2 - t) = -t - 3$

(ii)  $-1 \leq t \leq 0$  ( $\frac{1}{2} \leq x \leq 1$ ) のとき

$$g(t) = -(t^2 - 2t - 3) - (t^2 - t) = -2t^2 + 3t + 3 = -2\left(t - \frac{3}{4}\right)^2 + \frac{33}{8}$$

(iii)  $0 \leq t \leq 1$  ( $1 \leq x \leq 2$ ) のとき  $g(t) = -(t^2 - 2t - 3) + (t^2 - t) = t + 3$

(iv)  $1 \leq t \leq 2$  ( $2 \leq x \leq 4$ ) のとき

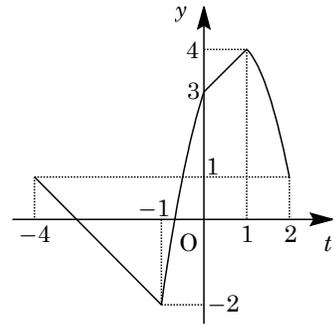
$$g(t) = -(t^2 - 2t - 3) - (t^2 - t) = -2t^2 + 3t + 3$$

(i)~(iv)より,  $y = g(t)$  のグラフは右図のようになる。

すると, (1)より  $\frac{1}{16} \leq x \leq 4$  のとき  $-4 \leq t \leq 2$  となり,

$h(x) = g(t)$  から  $h(x)$  のとりうる値の範囲は,

$$-2 \leq h(x) \leq 4$$



(3)  $t = \log_2 x$  から,  $t$  と  $x > 0$  は 1 対 1 の対応をすること

に注意すると,  $y = h(x)$  ( $\frac{1}{16} \leq x \leq 4$ ) のグラフと直線  $y = 1$  の共有点の個数は,

$y = g(t)$  ( $-4 \leq t \leq 2$ ) のグラフと直線  $y = 1$  の共有点の個数に等しい。

したがって, 右上図から 3 個となる。

ここで,  $y = -2t^2 + 3t + 3$  ( $-1 \leq t \leq 0$ ) と  $y = 1$  を連立すると,

$$-2t^2 + 3t + 3 = 1, \quad 2t^2 - 3t - 2 = 0, \quad (2t+1)(t-2) = 0$$

これより  $t = -\frac{1}{2}$  となるので,  $y = g(t)$  と  $y = 1$  の共有点は, 右上図から

$t = -4, -\frac{1}{2}, 2$  である。すると,  $y = h(x)$  と  $y = 1$  の共有点の  $x$  座標は,

$$x = 2^{-4}, 2^{-\frac{1}{2}}, 2^2 \quad \text{すなわち} \quad x = \frac{1}{16}, \frac{1}{\sqrt{2}}, 4$$

(4)  $y = h(x)$  ( $\frac{1}{16} \leq x \leq 4$ ) のグラフと直線  $y = a$  ( $a$  は定数) が共有点をもつとき,

その個数は, 右上図から,  $a = -2, 4$  のとき 1 個,  $-2 < a < 1, 1 < a < 4$  のとき 2 個,  $a = 1$  のとき 3 個である。

[コメント]

合成関数を題材にした問題です。ただ、絶対値をはずすための場合分けが煩雑なため、時間を費やしてしまいます。

5

問題のページへ

(1)  $z = r(\cos\theta + i\sin\theta)$  とおくと、 $i = \cos\frac{\pi}{2} + i\sin\frac{\pi}{2}$ 、 $z^2 = r^2(\cos 2\theta + i\sin 2\theta)$  から、

$$iz^2 = r^2 \left\{ \cos\left(2\theta + \frac{\pi}{2}\right) + i\sin\left(2\theta + \frac{\pi}{2}\right) \right\} \cdots \cdots (*)$$

$iz^2 = 2$  のとき、 $r^2 = 2$  かつ  $2\theta + \frac{\pi}{2} = 2n\pi$  ( $n$  は整数) から、 $r = \sqrt{2}$  となる。

また、 $0 \leq \theta < 2\pi$  とすると、 $n = 1, 2$  となり  $\theta = \frac{3}{4}\pi, \frac{7}{4}\pi$  であるので

$$z = \sqrt{2} \left( \cos\frac{3}{4}\pi + i\sin\frac{3}{4}\pi \right) = -1 + i, \quad z = \sqrt{2} \left( \cos\frac{7}{4}\pi + i\sin\frac{7}{4}\pi \right) = 1 - i$$

(2)  $0 < iz^2 \leq 2$  のとき、(\*) から  $2\theta + \frac{\pi}{2} = 2m\pi$  ( $m$  は整数) となる。

そこで、 $0 \leq \theta < 2\pi$  とすると、 $\theta = \frac{3}{4}\pi, \frac{7}{4}\pi$  である。

(3) 条件  $0 \leq iz^2 \leq 2$  を満たす複素数  $z = r(\cos\theta + i\sin\theta)$  全体の集合を  $S$  とすると、

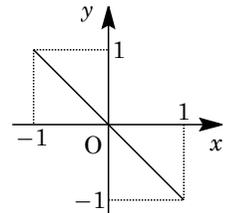
(i)  $0 < iz^2 \leq 2$  のとき

(\*) より  $0 < r^2 \leq 2$  ( $0 < r \leq \sqrt{2}$ ) で、(2) から  $\theta = \frac{3}{4}\pi, \frac{7}{4}\pi$

(ii)  $iz^2 = 0$  のとき (\*) より  $r = 0$ 、すなわち  $z = 0$  である。

(i)(ii) より、集合  $S$  を複素数平面上に図示すると、

線分:  $y = -x$  ( $-1 \leq x \leq 1$ )



(4) (3) から、 $z = x - xi$  ( $-1 \leq x \leq 1$ ) とおくことができ、このとき複素数  $w$  を、

$$w = \frac{z}{z+2} = 1 - \frac{2}{z+2} = 1 - \frac{2}{x+2-xi} = 1 - \frac{2(x+2+xi)}{(x+2)^2 + x^2}$$

ここで、 $w$  の実部を  $f(x)$  とおくと、 $f(x) = 1 - \frac{2(x+2)}{(x+2)^2 + x^2} = 1 - \frac{x+2}{x^2 + 2x + 2}$

$$f'(x) = -\frac{(x^2 + 2x + 2) - (x+2)(2x+2)}{(x^2 + 2x + 2)^2} = \frac{x^2 + 4x + 2}{(x^2 + 2x + 2)^2}$$

$-1 \leq x \leq 1$  における  $f'(x) = 0$  の解は  $x = -2 + \sqrt{2}$  から、 $f(x)$  の増減は右表のようになる。すると、 $f(x)$  すなわち  $w$  の実部の最小値は、

$x$	-1	...	$-2 + \sqrt{2}$	...	1
$f'(x)$		-	0	+	0
$f(x)$		↘		↗	

$$f(-2 + \sqrt{2}) = 1 - \frac{2 \cdot \sqrt{2}}{(\sqrt{2})^2 + (-2 + \sqrt{2})^2} = 1 - \frac{\sqrt{2}}{4 - 2\sqrt{2}} = \frac{1 - \sqrt{2}}{2}$$

[コメント]

複素数の計算と微分法の融合した標準的な問題です。